

平成24年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

整理番号 5 - 1 - 17

事務事業名	ごみ袋関係経費			担当課係	市民生活課（生活環境課分）
総合計画上の位置付け	大項目	2. 「安心」のまちづくり		記入担当者	
	中項目	③生活環境への阻害要因の減少		内線等	
	小項目	1. 環境への負荷の少ない循環型都市の構築		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	經常事業
事業予算費目	款	4 衛生費	項	2 清掃費	
	目	4 環境対策総務費	事業	2 ごみ袋関係経費	
開始年度	平成 6	年度	根拠法令・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条の2小松島市における廃棄物の処理及び清掃に関する条例	

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 家庭から出されるごみの分別収集の為、指定ごみ袋を購入（製造）する。				
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 指定ごみ袋を利用することにより、ごみの分別を推進し、回収作業の安全を確保するとともに、ごみの減量化意識の向上を図り、家庭系ごみの排出抑制、リサイクル推進に協力してもらう。				
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 購入（製造）の仕様、数量等を精査し、ごみ袋の現在の強度、利便性を維持しつつ、できるだけ安く購入（製造）する。				
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 平成6年度から、ごみの分別徹底や収集の安全性も考慮した市指定ごみ袋が制度化されている。				

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果
	ごみ袋購入（製造）枚数						
	単位		H23	H24	H25	H26	
枚	目標		2,269,000	2,428,000	2,534,000	2,500,000	2,450,000 平成27
	実績		2,269,000	2,428,000			
	達成度		100.0%	100.0%			

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H23	H24	H25	H26	指標の説明
燃えるごみ袋	枚	計画		1,542,000	1,658,000	1,734,000		
		実績		1,542,000	1,658,000			
金属・空き缶類ごみ袋	枚	計画		128,000	144,000	138,000		
		実績		128,000	144,000			
プラスチック類ごみ袋	枚	計画		512,000	536,000	566,000		
		実績		512,000	536,000			
ビン・ガラス類ごみ袋	枚	計画		87,000	90,000	96,000		
		実績		87,000	90,000			

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

全体コスト（円）	A 直接事業費	23年度決算		24年度決算		25年度決算		24年度予算	
関連事業費	財源内訳	国県支出金							
		地方債							
		利用者負担							
		一般財源	25,094,453	20,529,590					
	B 人件費 ①×②	1,497,648	1,616,658						
単位コスト	活動指標の説明	職員平均人件費①	7,488,241	8,083,290					備考 平成23年4月1日現在 人口41,204人 平成24年4月1日現在 人口40,876人
		従事した割合②/人	0.20	0.20					
		A + B	26,592,101	22,146,248					
	活動指標1単位当たりコスト		12	9					
	市民一人あたりのコスト		645	542					

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) ごみ問題は、排出者、生産者の責任へと移行しつつあり、生産者も廃棄処理の容易な製品やリサイクル可能な製品設計に取り組んでいる。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 過去にごみ袋が破れやすいと苦情があった年があり、毎年、落札業者に対して品質検査を徹底するよう指導している。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	指定ごみ袋は、ごみの減量化や分別収集及び利用者負担の原則から必要である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	ごみ処理に多額の経費を要しており、ごみを多量に排出する者と少量しか排出しない者との負担の公平性の観点から妥当である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	ごみの減量化や分別収集に寄与している。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	ごみは生活していくうえで否応なしに発生するものであり、その処分は必要不可欠なものである。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	平成24年度のごみ袋購入枚数は、2,428,000枚で年間必要なごみ袋枚数は確保できている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	引き続き、ごみ減量化意識の向上を図り、家庭ごみの排出抑制、リサイクル推進に協力をしてもらう。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	2	1 拡 充 す る	80点以上	評価点による判定 評価点 79 2	判定に至った理由 指定ごみ袋制度は、品質管理を徹底し、継続して実施すべきである。
		2 現状のまま継続する	60～79点		
		3 改善・効率化し継続	50～59点		
		4 見直しの上縮小する	40～49点		
		5 終期設定し終了	30～39点		
		6 休 止	20～29点		
		7 廃 止	19点以下		

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	2	1 拡 充 す る	判定説明 市民が、ごみ処理経費の一部を指定ごみ袋代として負担していただくことにより、排出規制はもとより適正処理を実施するうえで事業効果は大である。
		2 現状のまま継続する	
		3 改善・効率化し継続	
		4 見直しの上縮小する	
		5 終期設定し終了	
		6 休 止	
		7 廃 止	